

おわりに：子ども施設に関わる皆様へ・・・

## ～ 子ども施設と地域との共生に向けた検討委員会からのメッセージ ～

わが国全体が人口減少社会を迎える中、子どもを産み、育てやすいまちづくりを進めていくため、子ども施設は大きな役割を果たしています。しかし、子ども施設を取り巻く環境が変化中、子どもの健全な育成環境を確保・充実していくためには、子どもの育成の視点だけでなく、地域からの視点にも思いを寄せ、子ども施設と地域との共生の実現に向けて、子ども施設に関わる様々な主体が考え、それぞれの行動の中で配慮していくことの重要性が高まっています。

本手引書の作成にあたって実施した市町村アンケートや、子ども施設、建築事務所、自治体へのインタビューを通じて、府内においても様々な苦情が発生している実態が確認されると同時に、施設整備や施設運営にあたって様々な配慮・工夫をされている事例が把握できました。一方で、子ども施設の新設にあたっては補助金の交付・執行のスケジュールの制約から、地域との十分な協議時間が確保しにくいとの悩みの声が子ども施設や建築事務所から聞かれており、国・自治体における制度運用での工夫が望まれます。

本手引書には、これらの調査結果に基づく様々なヒントやアイデアが示されています。本手引書を活用し、子ども施設に関わる皆様が、子ども施設と地域との共生に向けて取り組み、将来にわたって子どもの健全な育成環境を築き、継承されることを願います。

### 1. 子ども施設の事業者の皆様へ

**子ども施設を取り巻く環境の変化を受け止め、地域との共生の重要性を職員だけでなく保護者とも共有し、適切に対応していくことが求められています。**

子ども施設を取り巻く環境が変化し、子どもの健全な育成環境の確保と地域との共生との両立が重要となってきています。本手引書の作成にあたって実施したアンケートやインタビューを通じて、苦情等につながる様々な要因を把握しました。子どもの声だけでなく、職員や保護者など大人の声や、その他のさまざまな音、あるいは送迎などの保護者のマナーまで、さまざまな苦情が寄せられていることがわかりました。

「今は問題がない」と感じられていても、隣接地の土地利用や住民の入れ替わり等、周辺環境が変化することで、以前は問題なく受け入れられてきたことが苦情の要因になるケースもあります。

本手引書は、子ども施設と地域との共生に向けて、さまざまな配慮・工夫の方法を紹介しています。子ども施設の立地条件や教育・保育の特徴、近隣地域との関係性によって有効な対応策が異なることから、本手引書を参考に、職員の皆さんで話し合ってください、優先度をつけて施設運営に反映していただければと思います。

また、施設が完成した後に、施設・設備に関する苦情が発生した場合、対策には多くの労力や費用を要する可能性があります。建築事務所等の専門家に提案・助言を求める等、子どもの育成環境の確保に加えて、地域との共生の観点からの配慮を取り入れた整備計画を検討していただければと思います。

## 2. 市町村の方へ

---

**必要量の子ども施設を確保し子どもの健全な育成環境を守るとともに、地域の生活環境を維持するために、子ども施設と地域との適切なコミュニケーションが図られるように助言・支援が求められています。**

子ども施設を取り巻く環境が変化し、子どもの健全な育成環境の確保と地域との共生との両立が重要となってきています。住民からの苦情・相談での対応や、事業者からの相談への対応にあたって、本手引書を活用していただければと思います。子ども施設と地域との相互理解や信頼関係が深まるように、子ども施設と地域との適切なコミュニケーションが図られるよう、助言・支援をお願いします。

子ども施設の新規整備への要請が高まる中で、とくに市街化が進んできている都市部においては、子ども施設の用地の確保にあたって選択肢が限られる状況があります。今回実施した建築事務所へのインタビューでは、用地の広さだけでなく、送迎の動線となる道路の道幅などが設計上重要なポイントとの指摘がありました。また、子ども施設や建築事務所からは、「地域との調整にあてられる期間が短い」「説明会の開催や地域の合意が公募への応募条件に含まれているなど、対応に苦慮するケースがある」などの意見が寄せられました。後者については、選定される前の段階で事業者と地域との調整を求めるものであり、事業者からは負担が大きいとの意見もありました。

子ども施設の確保という社会的な要請に応えていくため、子ども施設と地域との相互理解や信頼関係が深まるような、制度運用の工夫や支援をお願いします。

## 3. 建築事務所の方へ

---

**子ども施設と地域との共生に向けて、設計段階での配慮・工夫の重要性が高まっており、建築事務所の知見・ノウハウを活かした子ども施設への積極的な提案が求められています。**

子ども施設の新規整備が求められている中、市街化が進んだ地域では、住宅に隣接した用地での子ども施設の整備計画が増えていくと思われます。また、施設の建替えにあたって、定員を増やすために従来よりも規模が大きくなる場合もあります。

こうしたことから、子ども施設の設計段階での配慮・対応がますます重要になっているといえます。本手引書の作成にあたって実施した子ども施設へのヒアリングでも、苦情を未然に防止するために、施設の設計や設備でどのような配慮・工夫の選択肢があるのかを知りたいという声がありました。

建設用地や隣接地の現状だけでなく、将来の変化も想定したうえで、施設の整備段階で配慮が可能な事項を積極的に検討し、子ども施設の事業者（施主）に設計や設備のプラン（選択肢）の提案をお願いします。

また、施設の完成後にも技術的な助言が必要な場合もあります。開設後も引き続き子ども施設への支援をお願いします。

#### 4. 保護者の方へ

---

**子どもの健全な育成環境を守るために、地域との共生に向けて、子ども施設が保護者の皆さんに協力をお願いしているルール・マナーの遵守が求められています。**

本手引書の作成にあたって実施した市町村アンケートや子ども施設や建築事務所へのインタビュー調査において、近隣からの苦情として多くあげられたのが「送迎時における保護者のマナー」です。具体的には自転車の走行マナーや路上駐車、保護者の話し声等です。

それぞれの子ども施設では保護者の皆さんに対して様々な協力を依頼していると思います。その中には、施設の整備にあたって、子ども施設が近隣地域と約束したルールが含まれている場合もあります。「私だけなら」「今日ぐらいは」「他の人もしている」といった保護者のマナーの低下が、子ども施設に対する地域の信頼の低下につながり、改善がみられない場合には大きな苦情に発展する場合があります。

いま施設を利用している皆様のお子さんは、いずれ成長して施設を巣立っていかれるでしょう。でも、その後も、子ども施設はまだ生まれていない将来の子どもたちのために、ずっと地域で存在し続けます。ご自身のお子さんだけでなく、未来の子ども達へ健全な育成環境を引き継いでいくためにも、子ども施設からの協力依頼について、保護者一人ひとりが意識を高め、行動していただくようお願いします。

#### 5. 地域の方へ

---

**子どもたちの健全な育成にあたっては、地域の方とのふれあい・交流がとても大切です。地域の方からも子どもたちを見守っていただければと思います。**

子ども施設を取り巻く環境が変化する中、地域と子ども施設との共生のためには、さまざまな配慮・工夫が求められています。本手引書はその参考資料として作成したのですが、子ども施設の立地状況によっては、対応がとりやすいものもあれば、難しいものもあります。また、同じ対策をとっても、その効果には違いがあることを、ご理解いただければと思います。

本手引書の作成にあたって実施した子ども施設へのインタビューでは、大きな「音」がでる行事や、施設に大勢の来場者がある行事など、周辺地域に影響の大きい行事などについて、地域にきめ細かく事前にお知らせしている事例がありました。また、地域と子ども施設との共生にあたっては、コミュニケーションがとても大切であり、園内での地域の方と子ども施設との交流、子どもたちや職員の地域活動への参加などに取り組んでいる施設も多くありましたので、これらの事例を紹介しています。

子どもたちは保護者や施設の大人だけでなく、地域社会とも関わり合い・交流していくことで、心身ともに健やかに成長していきます。地域の皆様からも、子どもたちを暖かく見守っていただければと思います。

